

# 日本体育大学大学院

## 令和 8 年度入学者選抜【出題の意図・解答又は解答例等】

研究科・課程	保健医療学研究科・修士課程
コース	救急災害医療学コース
実施期	II 期試験
試験科目	筆記試験（専門科目）

### 【出題の意図】

本設問は以下の能力を評価することを目的とする。

#### 資料読解力

OHCA と市民 CPR に関する学術的英文の要旨を正確に理解し、課題を抽出できるか。

#### 批判的思考力

DA-CPR と訓練の利点・限界を比較し、多面的に検討した上で、自らの立場を論理的に展開できるか。

#### 専門職倫理・公衆衛生的視点

救急医療資源の限界や市民教育の意義を踏まえ、専門家として社会的に妥当な判断を示せるか。

### 【解答例】

病院外心停止は、救急医療において最も重篤かつ頻度の高い課題の一つであり、市民による迅速な心肺蘇生（CPR）の実施が救命率向上の鍵となる。現行の対策として、CPR 訓練と DA-CPR が普及してきた。特に DA-CPR は、訓練を受けていない市民にも行動を促す点で社会的意義が大きく、世界的に推奨されている。しかしながら、実際には胸骨圧迫の深さやテンポなど CPR の質が不十分となることが多く、開始までの時間も遅れがちである。また、近年の研究では DA-CPR に依存するよりも訓練済み市民による CPR の方が神経学的予後や生存率が良好であることが示唆されている。この点から考えると、DA-CPR は「最後のセーフティネット」として不可欠である一方で、真に効果を上げるためには市民への事前訓練の普及が不可欠である。学校教育への組み込み、VR や短時間コースなど受講しやすい形式の導入、地域コミュニティでの継続的な啓発活動が重要である。また、訓練済み市民と未経験市民の両者を想定し、DA-CPR のアルゴリズムを改良することも必要である。例えば、経験者向けには詳細な質の改善指示を、未経験者向けには心理的ハードルを下げる簡潔な指示を提供するなど、柔軟な対応が望ましい。

結論として、DA-CPR と市民 CPR 訓練は相補的な関係にある。DA-CPR を基盤としつつ、社会全体で市民訓練の受講率を高めることが、OHCA 患者の予後改善に最も寄与すると考える。